

雨がどうやら少なそうな今年の梅雨。雨が少ないのに、雑草だけは例年以上に伸びます。草魂の強さ、たくましさを感じる毎日です。名残惜しく、鯉のぼりに別れを告げた6月初旬。そのまま梅雨に入り、カタツムリに会えると思いきや、好天が続く、いつの間にか入れ替わりに、虫と出会い、大地の散歩コースは、実は、現在最高の見頃の虫たちの遊び場となっています。先週末には、新設された露天風呂に入っていたら、虫が飛んできました。

ヒグラシも鳴き始め、エネルギーいっぱい夏の夏がもうそこまで来ていそうな気配です。絶対に雨が少ないので、水不足や作物の不作につながらなければいいと願います。そうそう、大地の裏の自然農の畑。見慣れると、やはり自然農の畑の景観は、自然とマッチしますね。緑の中に、削り取られたような茶色の畑に、緑の作物がによきによきと生えている光景（今までは、それが当たり前で何の違和感もありませんでした）に比べ、草マルチや緑の中で、自然に育っている、それもたくましく、小ぶりではありますが、雑草と一体感を持ち応援されて育つ姿は、まさに、自然の中で育つ大地の子どもの生き写しであるように感じます。人工的な化学肥料や黒いマルチシート、機械による耕作、草刈りをしなくても、景観も美しく、おいしい安全なものが育てば、全てOKです。何よりも、それこそ何もなくて良い（もちろん、人間のずくだけですが）自然への畏敬の念だけです。子どもたちも頻りにこの畑に通っています。彼らの視覚に、心に、他の畑とは違う畑の緑感、自然の色と同じ一体感を、写し感じ取りそれを印象的に残している、いつかそれらを思い浮かべ、思い出してもらえましょうと思います。同じく、水田も、稲の分けつは、遅く心配されましたが、自然農は、やはりそれが自然らしく（化学肥料は、促進させるらしい）、今になり人並みになり、ひいき目に見て、自分の所の稲のほうがたくさん感じるほどです。先日、子どもたちと、匍匐前進で草取りをしてきました。気が早いですが、全て秋の収穫を楽しみにしている毎日です。汗いっぱい流して夏を楽しみ、秋を迎えましょう。



【妻の3度目の育児を見る】

妻の母親 93 歳が、大地ののほな文庫で約一か月過ごしました。介護、デイサービス、介護保険、ケアマネージャーなどの世界をはじめ、車いす用の施設、トイレ、レストランなどにも目を開かれました。この一か月、多くの学びと感動と感謝を感じました。

お寺を守り続けてきたこの義母は、青ちゃんにとっては仏様であり、母親像の鏡であり、妻（ノンタン母さん）を生み育ててくれた慈愛深い母であり、妻の人間性を慈しみ形成し、私に授けてくれた人です。この義母のお蔭で、素晴らしい幸せな人生を歩んでこれました。妻が、大地で母親と共に、時を過ごしたいという希望には、この母親が大地の自然の中で穏やかに、そして妻が、親子で時をもう一度過ごせるなら、何でも精いっぱい何よりも優先してやること、今までの慈愛に答え、感謝して尽くそうと思いました。

文庫祭りが終わり、すぐに京都へ迎えに行き、慣れない車いすの乗り降り、トイレタイムなどで通常より 2 時間も多い 8 時間の長旅で文庫着。すぐに、トイレ改装（車いす用）、ベッド、動線確保の家具配置などして、文庫は生活感いっぱい生まれ変わりました。志賀高原の山並みからの朝日をもう一度見たい（雄飛の感謝の会：結婚式の元旦に泊まり見た）という希望に沿い、朝日が見える方向にベッドを置き、妻も、更に山並みが見える窓際に眠り、青ちゃんは文庫 2 階で寝泊まりしました。

着いた夜から、京都弁によるお世話が始まりました。「寒いか」「どうえ？」「ようになったか？」ほとんど妻からの問いかけですが、それを傍らで聞きながら、結婚当初からの思いがふつふつ湧き出てきました。まさに自然な親子の姿でした。

「妻の3度目の育児」青ちゃんが言うのも気が引けますが、妻の子ども達への育児は素晴らしかったし、まさにこの母親から受け継いだものだと思います。そして、孫に対してもやはり素晴らしい慈愛のある接し方育児をしてくれます。それは、大地ミニを見てもわかります。そして、今回の介護と言っているのか、それとも逆転した親子関係と呼んでいるのか、妻が母親に対する慈愛あるお世話という育児か。妻の成熟した育児を、感動と涙で見て、肌で感じた一か月間でした。改めて、妻のすばらしさ、この母親から育まれた人間性を感じ、人間の育ちで大切にしなければならぬ最大のものを教えられた思いでした。その意味で、妻の育児を3度見れたことは、幸せでした。その意味でも、この母親に感謝と尊敬の念が絶えません。

京都から来た当初は、便秘が一週間以上続き、咳がずっと続き、喘息のようになり、痰が詰まっていた。そして、10種類近くの薬を服用していました。心配で、浣腸してもらいに医者に行き、肺炎の心配でレントゲンを撮ってもらいに懇意にしている医者へ行き、薬の多さを相談したりしました。晩年を、薬の服用（薬が多いと、生きながらえるがポートとする状態が続く）で長生きするか、それとも、生き生きとして暮らすかは、家族の最終的な価値観によるものであり、私たちは、この母親が、家族とともに幸せに日々を幸せに暮らしてほしいと願い、大地関係者の自然療法の人たちに相談し、力を借り、薬を減らし、自然療法を取り入れることにしました。

そして、妻の願いと努力の結果、しばらくして、大量の便が出ることに成功しました。本当に感激しました。そして、肺炎が懸念された咳も、いつの間にか自然治癒、自力で治ってしまいました。薬も、相談して、約半分にはしましたが、懸念されたリスクもありませんでした。そして、日を迫うにつれて、顔が柔和になり、反応も良くなり、食欲も素晴らしく、体のキレもよくなっていきました。

行動派の青ちゃんとしては、善光寺まいり、野沢温泉雄飛宅訪問、牟礼天狗の湯、高山村山田温泉大湯の足湯、大地夜の虫見物、外食レストラン4回、大地ピアノ発表会、文庫お話し会、ろうそくを消す、子ども達の田んぼの除草見物、サンクゼール訪問、大地足湯、文庫ベランダレストラン などなど、ハイエース車いす仕様車で、夜遅くまで一緒に遊びまわりました。京都へ戻ったその日の訪問医療で、看護師さんや医者から「陽に焼けましたね」と言われたぐらいです。

もうひとつの最大の力は、やはり子ども達です。赤ちゃんや子どもたちと接するときの表情や接した後の体のキレは違います。孫のあるちゃんと過ごしたその夜などは、普段全然できない寝返りを、ばたんばたんとしてびっくりさせたほどです。文庫の窓から子どもたちの姿を見、歓声を聞き、時には花をもらったり、声をかけてもらったり、何よりも大きなエネルギーになったことでしょう。本当に、子どもたちのエネルギーはすごいものです。

教育現場と医療現場の違いを学んだことを思い出しました。教育現場では、できないことを、どうしてできないかと責め、問い詰め、受け入れず、その人のせいにする傾向がある。医療現場では、できないことを受け入れ、決して責めず、その人のせいにはせず 手助けしてできるように介助して願う。この大きな違いがあるという。

まさに、妻は、医療現場に近い子育てをしている。青ちゃんは、医療現場で今回は一か月学んだ。感謝!!